

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。Vol.12では第1回アザメの瀬研究会、第18回、第19回検討会をお伝えしました。Vol.13ではアザメの瀬出立式、第20回検討会、アザメの瀬研究の内容をお伝えします。

## アザメの瀬出立式(生物採取付き)

H15.6.29

6月18日、松浦川流域に雨が激しく降りました。その日アザメの瀬はその雨のおかげで川とアザメを隔てていた大型土嚢を乗り越え河川水を入れてしまうハプニング!?。29日は形だけの出立式(一応けじめをつける)となりました。自然は人間の思う通りにいかないものだと、改めて実感しましたね。しかし、河川水が入ったおかげで魚採りはかなり大漁。子供達の笑顔も見れましたし、結果オーライです!!



出立式の様子



手探りで魚を探す!!



魚に興味津々



土嚢があげられ水が入ってきます

## 公募研究の内容について ~続々と研究者が来ます~

Vol.12で紹介した公募研究の詳しい内容を下表のように紹介します。内容が専門的すぎて訳が分からないかもしれませんが、あらゆる角度からアザメの瀬の自然再生を評価するのに必要な内容を提案してくれています。現地で会ったときには質問してみましょう。

研究者	内 容
桜井慎一 [日本大学]	CVM手法によってアザメの瀬を評価しています。CVM(Contingent Valuation Method: 仮想評価法)手法とは、アザメの瀬のように利用価値を直接はかれない物をアンケート調査や聞き取り調査によって金額として評価する手法です。あなたはアザメの瀬自然再生に年間5000円支払えますか?みたいな感じです。
山口裕文 [大阪府立大学]	アザメの瀬において復元してくる植生の構成種から生態系評価適性を持つとされる代表種を選定し、その遺伝的特徴を近接地域に自生している同種個体群とともにある手法によって分析、評価し遺伝的多様性の動態を調査しています。難しい…。
西廣 淳 [東京大学]	土壌シードバンクによる植生回復過程の調査し、自然再生事業における適切な植生導入手法を研究します。アザメの瀬にはどんな植物が生えてきているのか(1回/月)を調査します。あやしい植物を見つけたら、相談?
望月俊宏 [九州大学]	アザメの瀬への養分の供給量、排出量およびバイオマス生産量を定点調査し自然再生のベースとなる養分可給量を評価しています。具体的には、アザメの瀬において定期的に土壌を採取し、窒素、リン、炭素などの有機物含有量の変化を調べています。それと並行に、流入水(松浦川や溜池)について水質調査も実施します。(バイオマスとは草木、生ゴミ、紙など)
増田泰久 [九州大学]	アザメの瀬におけるイネ科植物群落の推移を明らかにし、植物の推移に伴って周辺地域から移入してくる小動物(カヤネズミなど)の生息種とその生息密度調査を行うことで、イネ科の植物の安定的成立の指標として評価します。分かりやすく言うと、カヤネズミの定着によって、イネ科草本群落の成立を評価するということです。
中島敦司 [和歌山大学]	アザメの瀬のような自然再生事業によって形成されるピオトープ空間が生物相復元にどれくらい効果があるかをアメンボのような身近な動物を使って、評価をできるようにする技術開発のための生態調査を行います。ちなみに、ピオトープとは生き物の住む場所という意味です。

# 第20回検討会開催！ H15.7.9

今回の検討会では『アザメの瀬の現状における問題点の把握と対策』『アザメの瀬橋はどのようにするか』『付替道路の舗装』について議論しました。いつもに増して内容が濃い検討会であったと思います。

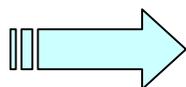
## アザメの瀬の現状における問題点の把握と対策

### 問題点

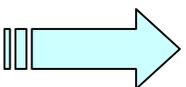
土砂の流出が甚だしい  
河床材料が粘土層であるため  
ぬかるんで危なくないか  
水路部に達するまでの法面勾配  
瀬と淵の創出



濁度が激しいため、透明感が出ない！



沼と化している三日月湖をどうするか？危なくないか？



### 話し合った結果

将来的には周辺地盤を1m位掘り下げる。その際、**法面勾配を30%以下にする**。しかし、现阶段では土砂流出や掘削などは行わず、**しばらく落ち着くまで見守る**という結論になりました。

工事中であることや、洪水が起きたばかりなので汚れているだけ、**そのうち良くなるのではない**か全体に表土を蒔くことで草が生えてきて土壌の流出が少なくなるだろうという結論になりました。

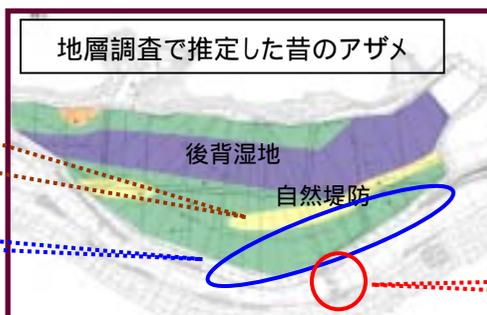
今回の検討会当日、松浦川出張所の方で三日月湖の水を下げるためにクリークと三日月湖の間を掘って繋いで水位を下げて頂きました。御苦労様でした！

## アザメの瀬橋改築について

今回、なぜアザメの瀬橋を架け替えようとなったの？それは昔、アザメの瀬は後背湿地で川の水が頻繁に入ってくるような場所でした。また、アザメの瀬の一部は松浦川であったということもあります。これを背景に**松浦川も昔の川幅に戻してはどうか？**ということになり、現位置の橋の架け替えを考えることになりました。

後背湿地の前には氾濫を繰り返しながら自然に形成された自然堤防が存在

昔は川だった場所



主に粘土からなる層
主にシルトからなる層
主に礫からなる層
礫混じりの粘土層(旧期産錘堆積物)
主に礫混じり砂層からなる層
岩盤(第三紀層砂岩)

アザメの瀬橋

橋を架け替える際には、どのようなものにと意見を交換すると・・・「橋の高さが高すぎるから低い位置にして欲しい」「橋の幅員が狭すぎて軽トラックしか通れない」等の意見が今までの検討会の中で議論されてました。今回の検討会では、さらに具体的な議論となって、「**木橋は維持管理が難しいし、また舗装はアスファルトよりはコンクリートがよい**」「**橋が低い方が流木が橋の上を流れていく**」「**橋下の河床高は現状を維持して欲しい**」などが出されました。橋の地覆高は、車で橋の上を通った視界を高さごとに示した上で議論すると、「**40cmは高すぎる。もう少し低く!**」など具体的に話し、結局は20cm位が妥当ではないかとの結論になりました。

## 付替道路の舗装について

舗装面、道路の色はどうするかという議論を行いました。その結果、「**グリーン系の道路より茶色の道路の方がアザメの瀬の風景にマッチするのでは?**」「**車も通るから耐久性も必要だ!**」「**今度の検討会で舗装のサンプルや設計が見たい**」などの意見が出ました。この付替道路の色でアザメの瀬に初めて入ってきた人の印象が決まるんじゃないか？と編集している私自身も思います。なるべく自然とマッチしたものを造りたいので、どんどん御意見お願いします！

**編集後記** アザメの会がとうとう全国デビューを果たしました！！右の写真は全国デビューした川の日ワークショップの写真です(少し小さいですけど)。7月30日、武雄市民会館で行われた「水ネット設立総会」にも積極的に参加するなど、どんどん活動が活発になってきてます！今後の活動に要注目！

